

評価シート集計表

A=4,B=3,C=2,D=1

基本方針 1		総合評価
市民、事業者との連携を強化し、協働による取組みを進めます		B (3.2)
委員	評価	評価理由
委員A	B	コロナ禍による制限が緩和されたこともあり、特に市民向けの普及啓発活動については、回数的には充実したものになったと評価できます。
委員B	B	ごみ分別アプリのPRに期待している。
委員C	B	地域や事業者が行う支援へ取り組みに多少不足があるものの、全体としては取り組みが進んでいると評価できる。
委員D	A	資源循環にかかわる周知・啓発において、適切に計画通りの活動が行われている。また、市民、事業者への支援についても、主にPRであるが、実施がされている。SNS等の情報提供も努力していることが確認できる。
委員E	B	市民からの具体的な話し・行動事例に対する講座、事業者との連携姿勢に将来の可能性を感じます。
委員F	B	ほぼすべての項目で目標を超えているため。
委員G	B	指標と目標値については、各実績値が目標値を超えているためです。但し、1-1-2担い手づくりに向けた取組の推進については、ごみ減量サポーターによる効果が分かりにくいと思われます。
委員H	B	殆どの項目が目標値を達成して成果が見られる。良い取り組みを更に発信できるように活動してください。
委員I	B	様々な形で取組を進めていることはある程度評価できる。
委員J	B	強化方法をどうするか、検討が必要かと。
委員K	B	2022年度の目標は概ねクリアしている。
委員L	B	講座・イベント等の実績が目標を上回り、また、幅広い年代層に対して、ごみ減量や環境問題の啓発に寄与出来たことは評価できる。しかし、生ごみ資源化団体の支援に関しては、早急に見直しを行い、その周知と共に新規受付を再開して下さい。また、各種ツールによる情報発信の実績は評価できるが、その効果の検証が必要です。
委員M	A	限られた予算、人的資源の中で、目標値をはるかに超える回数を達成。積極的に講座やイベント、キャンペーン等を開催している点は、高く評価できる。

評価シート集計表

A=4,B=3,C=2,D=1

基本方針2		総合評価
家庭系ごみの減量を進めます		C (2.7)
委員	評価	評価理由
委員A	B	段ボールコンポストや給水スポットの整備など、一定の成果が見られる施策もあります。
委員B	C	目標値に達していない項目が目立つ。
委員C	C	ごみの発生抑制や減量化、資源化は非常に重要な課題であり、積極的に取り組む必要がある。大幅な改善は難しいのかもしれないが、市の制度としてどのようにごみの発生を抑制あるいは減量するのかについては、さらなる工夫と地道な努力が必要であると思われる。
委員D	A	食品ロス削減に向けた周知活動、生ごみ減量のための補助を、計画通り進めている点が評価できる。公共施設へのマイボトル給水機の設置はペットボトルなどの減量の第一歩として重要といえる。
委員E	C	食品ロスの削減を推進するのに「ゴミ処理機」や「マイボトル」などの社会貢献も大事かと思いますが、市民の食生活に対する過剰？欲求？に対応するスーパーマーケット事業者のシステム改善が必要かと思っています。
委員F	C	目標に対し実績値が半分以下の項目がある
委員G	B	指標と目標値については、各実績値が目標値を超えているためです。2-2-2のプラスチックごみの資源化の推進について、容器包装プラスチック以外のプラスチックを今後どのように考えていくかの議論も必要だと思われます。また、各種講座を実施したことに対する数値効果を確認する方法も議論する必要があると思われる。
委員H	B	殆どの項目が目標値か昨年の実績値以上に達して成果が見られる。しかし、大幅に目標値に達していない部分もあるので見直しが必要だと思っています。
委員I	B	様々な形で取組を進めていることはある程度評価できる。具体的な方法をもう少し工夫してもらいたいと感じます。
委員J	B	少しずつは減少している様ですが、このままで推移していけるか若干不安。
委員K	C	2023年度取組方針・内容の中に、2022年度あるいはそれ以前と実質的に変わらないものとなっている記述が目につく。これまで行ってきたことの延長で目標数値を高めることよりも、たとえば民間企業の協力を得て店舗や店頭での回収を強化するなどこれまで十分でなかった取組をゼロベースで見直しを進めるべき。
委員L	B	食品ロス削減推進計画の早期策定と、実効を期待しています。使い捨てプラスチックの削減に関しては、事業者側の対応にも踏み込んだ対策が必要です。リデュース・リユースに関する、具体的な情報提供を強化して下さい。また、リサイクルに関しては、幅広い年代層が対象となるので、その情報提供手段も検討して下さい。さらに、リサイクルの窓口からの流通経路を含めた検討が必要です。
委員M	B	リデュースに関する情報提供の取り組みは評価できる。さらに取り組みを強化されたい。

評価シート集計表

A=4,B=3,C=2,D=1

基本方針3		総合評価
事業系ごみの減量を進めます		B (3.0)
委員	評価	評価理由
委員A	B	公共施設のごみの削減では大きな成果が出ました。
委員B	B	事業者への効果ある情報発信の実施に期待しています。
委員C	B	事業者に対する取り組みは、順調に成果を上げていると評価できる。
委員D	A	概ね計画通り進捗が認められる。公共施設の事業系ごみについては、大幅な削減が実施され評価できる。
委員E	C	適正排出の取り組み、優良事例の公表共に大規模事業所に対する指導・表彰かと思われるので小規模事業者への取り組みを強化していただきたい。
委員F	B	目標に対しほぼ達成。とくに事業系の削減は大きく評価できる
委員G	C	指標と目標値については、各実績値が目標値を超えているためです。公共施設や事業者から排出される事業系ごみは減少傾向にありましたが、今後コロナ禍から経済活動が再開されてくることを考えると、今年度あたりから増加することもあると考えられます。
委員H	A	殆どの項目が目標値を達成して成果が見られる。良い取り組みを更に発信できるように活動してください。
委員I	C	コロナの影響が大きくあまり進んでいないように思います。
委員J	B	事業系のゴミの問題は中々むずかしいのではないかな。
委員K	B	2022年度の目標は概ねクリアしている。
委員L	A	準まちだ3R賞を創設し、4事業所を表彰したことは評価できる。また、公共施設の事業系ごみの削減も、目標値を大幅に超えたことも評価できる。しかし、事業者によるフードバンクの取組に関しては、さらに指導を強化して下さい。
委員M	B	訪問指導は、事業所との信頼関係を築く上で、重要な取り組みである。さらに理解が進むよう取り組みを強化されたい。

評価シート集計表

A=4,B=3,C=2,D=1

基本方針4		総合評価
環境に配慮した資源化施設を整備し、適正かつ安全な処理に努めます		C (2.8)
委員	評価	評価理由
委員A	B	市としてできることは適切に実施されているという印象です。
委員B	C	足踏み状態の項目が目立つ
委員C	C	施設や制度の整備には時間やコストがかかり、また、想定外の事態も生じることがあるため、現時点で思い通りの成果があげられないのは仕方がない側面があるものの、目標値に達している項目が少ない。次年度以降、どのようにすればより成果が上がるのか、検討が必要である。
委員D	A	すべての項目で、計画以上の成果が得られていると考えられる。なお、新たな資源化策は、丁寧に検討を継続する必要がある。
委員E	B	生ごみの資源化について、バイオエネルギーセンターを視察させていただき、未知数の将来性を感じました。
委員F	B	硬質プラ目標が高すぎる為未達だが、前年に対しては大きく改善で来ている。
委員G	B	指標と目標値については、各実績値が目標値を超えているためです。4-2-1については下記にも書いてありますが、市民サービスと収集体制のバランスについて慎重な議論をお願い致します。
委員H	C	目標値を定めるのが難しく目標値に達成していても成果への繋がりが見えにくい。目標設定が定まらないと評価が難しく活動が停滞してしまいます。
委員I	B	新しいごみ焼却施設が出来たことが大きい。
委員J	A	バイオエネルギーセンターの本稼働から約1年半経ちおおむね発電効率も達成されています。
委員K	C	2023年度の取組方針・内容の中に、2022年度と実質的に変わらないものとなっている記述が目につく。資源化施設の整備や、資源化の拡大などの項目では、2022年度の「市の対応」欄の記載に比べて後退したと思えるものもある。これでは町田市の廃棄物減量が計画通りに進んでいない最大の原因とも言える資源化施設の整備の遅れに対する問題意識が甘いと言わざるを得ない。
委員L	C	新しいごみ焼却施設の、発電効率や発電量の実績は評価できる。しかし、燃やせないごみに含まれる硬質プラスチックの選別精度の実績が低く、改善が求められる。資源化施設の整備に関しては、上小山田地区の基本計画の策定に至っていない。資源化の拡大に関しては、調査研究に基づく具体案を早期に提示して下さい。
委員M	B	引き続き、適正かつ安全な処理の取り組みを強化されたい。

評価シート集計表

A=4,B=3,C=2,D=1

基本方針5		総合評価
社会的課題への対応を強化します		B (3.5)
委員	評価	評価理由
委員A	B	概ね計画通り検討作業等に取り組めていると評価できます。
委員B	A	ほぼ目標値に達している。
委員C	B	全体的に適切に検討が行われたり、キャンペーンが実施されており、評価できる。ただし、今後は検討結果を実施したり、成果を出していく必要がある。
委員D	A	災害廃棄物、高齢者対応、不適切回収、不法投棄、美化活動のいずれも、計画通り丁寧に実施されていると評価できる。
委員E	B	市民目線の評価となりますが、災害時（コロナ禍）の対応など良好だと思います。
委員F	B	ほぼすべての項目で目標を超えているため
委員G	A	指標と目標値については、問題ありません。5-1-3 応援・受援体制の整備では、2023年5月16日に一般廃棄物処理業者との災害廃棄物処理等に関する協定も締結済みのためです。
委員H	A	殆どの項目が目標値を達成して成果が見られる。良い取り組みを更に発信できるように活動してください。
委員I	C	具体的な計画や実施方法が出来ていないように思われます。
委員J	A	ふれあい収集、不法投棄防止、違法回収のトラブル等の強化
委員K	B	2022年度の目標は概ねクリアしている。
委員L	A	災害時等のごみ処理に関する対応に関しては、職員合同マニュアルの策定や廃棄物処理業者との協定締結と共に評価できる。さらに、近隣自治体との連携も検討して下さい。高齢者等に対する、効率的な収集体制の策定を期待しています。不法投棄防止対策としてのパトロール等の実施回数は評価できるが、さらに、効果的な防止対策も検討して下さい。
委員M	A	社会的課題に対して、様々な取り組みを行っていることは評価できる。引き続き、取り組みを強化されたい。